

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <https://zensuiren.org/>
お問い合わせ infoinfo@zensuiren.org
編集・発行 椿本和幸



狛鼻溪の「舟下り」(一級河川 北上川水系砂鉄川 写真提供：一関市)

日本百景の一つにも数えられる、名勝・狛鼻溪。砂鉄川の浸食でできた高さ100メートルの絶壁に奇岩、洞窟、滝など迫力のある絶景が広がります。

狛鼻溪名物といえば、船頭が棹一本で操る「舟下り」。春の新緑に始まり、5月の藤の花、10月には紅葉、そして雪景色と、四季折々の景色は壮観です。

会員のみな様、是非、足をお運びください。

● 目 次

治水事業促進全国大会開催のお知らせ	2
河川愛護月間をかえりみて	国土交通省水管理・国土保全局 治水課 … 3
令和5年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況	国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課 … 4
令和5年度「土砂災害防止月間」の取り組みを終えて	国土交通省水管理・国土保全局 砂防部砂防計画課 … 8



令和5年7月の大雨の状況 筑後川水系巨瀬川（福岡県久留米市）

開催日

11月9日(木)14時30分～

場所

シェンバツハ・サポー
(砂防会館別館)

主催者

全国治水期成同盟会連合会

特別講演

13時30分～

「激甚化する豪雨災害に
「流域」で向かい合う」

講演者:

片田 敏孝

東京大学大学院情報学環特任教授
日本災害情報学会会長

河川愛護月間をかえりみて

国土交通省水管理・国土保全局治水課

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。

本年度においても、「せせらぎに ぼくも魚も すきとおる」を推進標語として、国土交通省、都道府県、市町村が主体となり、全国各地でポスター、チラシ等による広報活動をはじめ、河川のクリーン作戦、水生生物調査等、多様な活動が、地域住民、河川愛護団体、関係行政機関等の協力を得て実施され、多数の方々の参加をいただきました。

月間中に行われた行事等の成果を踏まえて、今後とも、地域住民、市民団体等と協力した流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、年間を通して、国民の河川愛護意識の醸成に努めてまいりたいと考えております。

また、これらの活動に加え、河川愛護月間推進特別事業として、「川遊び～川での思い出・川への思い」をテーマに絵と文章を組み合わせて描いた絵手紙の募集を10月13日まで行っており、関係機関誌等を通じ、引き続き広く募集活動を行っております。

募集についての詳細は、国土交通省水管理・国土保全局ホームページ中『河川愛護月間』(<http://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html>)に掲載しております。



河川一斉清掃



水生生物調査



安全講習会



河川の安全点検

令和5年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 流水管理室

農林水産省、国土交通省、独立行政法人水資源機構、都道府県、市町村は、人々に森や湖に親しむ機会を提供することにより、心身をリフレッシュし、明日への活力を養っていただくとともに、そうした機会を通して森林やダム湖のもっている自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割などを理解していただくことを目的として、毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

今年も全国各地のダムやその周辺の森林を会場として、森や湖について理解を深めることができる様々なイベントが開催されました。

以下にいくつかのダムにおける今年度の実施状況を紹介します。

○ダム管理職員体験

岐阜県にある小里川ダムでは、夏休みの自由研究等の題材を提供するため、参加者を「一日ダム管理職員」として任命し、実際にダム管理業務を体験していただくイベントを開催しました。ダム施設点検や転流トンネル点検など普段は体験できないことに触れ、ダムについて楽しく学んでいただきました。



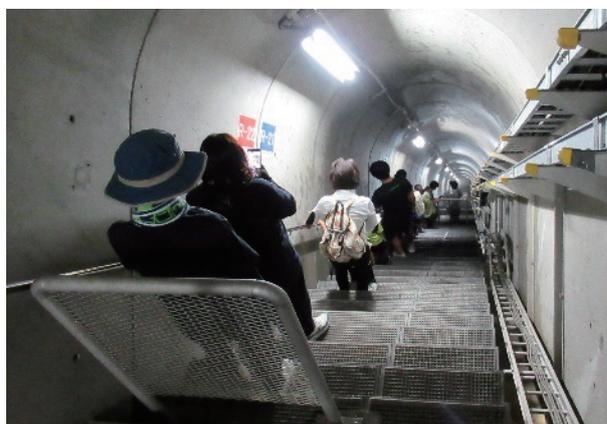
湖面巡視(小里川ダム)



ガイドクラブによる説明(殿ダム)

○ダム見学会

鳥取県にある殿ダムでは、ダムの内部（監査廊）の見学やインクライン（ケーブルカー）の乗車、湖面パトロール体験ができる「殿ダム一般開放～森と湖に親しむ旬間～」を開催しました。また殿ダムのことを知っていただくため、いなば国府ガイドクラブさんによるダムの説明も行っていました。



ダム内部探検(殿ダム)

埼玉県にある二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、合角ダムでは、「秩父4ダム探検隊が行く！」として、小学生とその保護者の方を対象に、秩父4ダムの堤体内やゲート室などダムの構造等を見学いただくとともに、秩父の自然、文化に触れ、水について考える機会の中で治水・利水・発電等の重要性を理解いただくための見学会を開催しました。



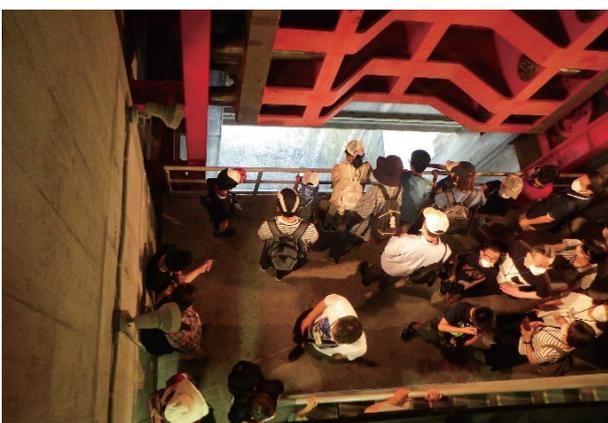
見学状況(二瀬ダム)



見学状況(滝沢ダム)



見学状況(浦山ダム)



見学状況(合角ダム)

○湖面活用イベント

北海道にある金山ダムでは、「かなやま湖湖水まつり」にて、かなやま湖畔キャンプ場でステージイベントやカヌー体験試乗会、花火大会等が行われました。



カヌー体験試乗会(金山ダム)



花火大会(金山ダム)

岩手県にある田瀬ダムでは、地域活性化を目的として「田瀬湖湖水まつり」及び「ウォータースポーツフェスティバル」を自然豊かな田瀬湖のダム湖面の活用により、花巻市主催で実施されました。



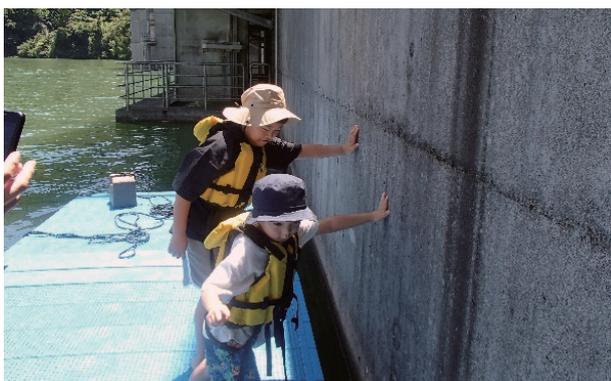
Eボートレース(田瀬ダム)

神奈川県にある三保ダムでは、実行委員会・山北町が主催となり、ダム湖を活用した「カヌーマラソン IN 丹沢湖」が開催されました。



カヌーマラソン大会(三保ダム)
※写真提供：山北町

佐賀県にある嘉瀬川ダムでは、「SUISAI 2023 & 森と湖に親しむ旬間」として、イルミネーションで飾りつけされたダムの堤体内の見学会、湖面ではダムタッチ（ダム湖遊覧）など普段は絶対にできない特別な体験ができました。



ダムタッチ(嘉瀬川ダム)

○丸太切り体験

青森県にある下湯ダムでは、「森と湖に親しむつどい」として青森市内の小学生を招いて、ダム・水道・森林の持つ役割について学んでもらいました。また、丸太切り体験やダム探検も行い、楽しんでいただきました。



丸太切り体験(下湯ダム)

○流木活用

長野県にある美和ダムでは、「美和ダム体験 DAY」が行われ、ダムのゲート機械室や土砂バイパストンネルなど見学できる探検ツアーや流木を活用した流木工作教室を開催しました。



流木工作教室(美和ダム)

群馬県にある相俣ダムでは、「赤谷湖流木工作教室」にて、相俣ダム（赤谷湖）の流木を使った工作教室が開催されました。思い思いに流木を使ったアート作品を制作されていました。



赤谷湖流木工作教室(相俣ダム)

○ライトアップ

岩手県にある湯田ダムでは、錦秋湖大滝（湯田貯砂ダム）の通廊を一般開放しており、堤体側から越流水を見ながら左右岸を往来できます。また、夜のライトアップでは夏の涼をイメージしたライトアップを行いました。



ライトアップ(湯田ダム(湯田貯砂ダム))

おわりに

国土交通省では、今後とも農林水産省等の関係機関と連携しながら、全国の各地でダムと森林の役割を人々に広く理解をしていただくための取り組みを推進・充実するとともに、限られた水資源の有効活用や水源地域活性化の推進を図ってまいります。

令和5年度「土砂災害防止月間」の取り組みを終えて

国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課
地震・火山砂防室 砂防情報係長 打桐 夏樹

はじめに

「土砂災害防止月間」は毎年各地で頻発する土砂災害に鑑み、土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制の整備促進等の運動を強力に推進することにより、土砂災害防止に対する国民の理解と関心を深め、人命、財産の被害の防止に資することを目的として、昭和57年の長崎豪雨災害を契機に、昭和58年度から実施しており、今回で41回目となりました。今年度も6月1日から6月30日までの期間において、全国各地で様々な「土砂災害防止月間」の取り組みが以下のとおり実施されましたのでご紹介します。

1. 土砂災害防止「全国の集い」の開催

今年度の「全国の集い」は6月1日に国土交通省、富山県の主催で、富山県富山市の富山国際会議場で開催し、全国から約800名の方々に参加していただきました。

第1部の開催式典では、吉岡幹夫国土交通省技監、新田八朗富山県知事、美濃部雄人富山市副市長より挨拶がありました。続いて土砂災害防止功労者表彰式を行い、土砂災害防止に関して顕著な功績があった個人7名と3団体が選ばれました。

▽受賞者

【個人】

伊東 尚志(富山県中新川郡上市町)
角谷 喜一郎(奈良県吉野郡野迫川村)
海堀 正博(広島県東広島市)
浜田 哲(北海道上川郡美瑛町)
佐久間 新平(宮城県伊具郡丸森町)
穴戸 克美(宮城県伊具郡丸森町)
室伏 徹(山梨県甲州市)

【団体】

千曲市桑原振興会(長野県千曲市)
村上市小岩内区(新潟県村上市)
一般社団法人砂防の父赤木正雄展示館
(兵庫県豊岡市)

第2部では、京都大学防災研究所長の中北英一

氏をお迎えし、「気候変動による豪雨災害への影響」と題して基調講演をいただき、豪雨や水災害に関して、どのような将来変化が予測されているのか、そしてどのような気候変動適応があり得るのか、事例紹介を交えながら解説いただきました。

第3部では、「治水分県・富山で考える土砂災害対策～立山の砂防120年とこれから～」をテーマにパネルディスカッションが行われ、立山の砂防120年及び世界遺産登録に向けた取り組みや気象激甚化を踏まえた今後の地域活性化と防災教育など活発な意見交換が行われました。

▽コーディネーター

松本 浩司(NHK 解説主幹)

▽パネリスト

小山内 信智(政策研究大学院大学教授)
松島 吉信(富山県文化財アドバイザー)
尾畑 納子(立山砂防女性サロンの会長)
林 真一郎(富山県土木部参事・砂防課長)

▽コメンテーター

三上 幸三(国土交通省砂防部長)

このほか、会場内において、全国の直轄砂防事務所や各都道府県の土砂災害対策事例を紹介するポスターセッションが開催され、全国各地の取り組みが紹介されました。

土砂災害防止「全国の集い」の連携行事として、砂防ボランティア全国連絡協議会の主催により「第24回 砂防ボランティア全国をつどい」が実施され、砂防ボランティア活動等における功労者の表彰や砂防ボランティアの活動報告等が行われました。

また、国土交通省北陸地方整備局、富山県、富山県建設業協会の主催により令和5年度 富山県砂防工事施工技術等連絡会を開催しました。「連絡会」は、砂防関係工事における安全管理、品質確保、生産性向上のため、発注者・受注者間の意見交換等を実施し、砂防関係工事の施工技術等の向上を図ることを目的に平成30年度から開催しています。

翌2日には、常願寺川の本宮堰堤、南砺市利賀村の砂防事業現場等を見学する現地研修会を開催しました。

2. 令和5年度「土砂災害・全国防災訓練～避難の声かけ、安全の確認～」の実施

「土砂災害・全国防災訓練」は、平成18年度から毎年、土砂災害に対する避難体制の強化と防災意識の向上を図るために行われ、全国の土砂災害警戒区域等における住民参加による実践的な訓練を実施しています。

全国で延べ約50,000名に参加していただき、ハザードマップ等により土砂災害の危険性が高い箇所及び避難経路の確認を行う避難訓練や、土砂災害時の対応に備えるべく避難情報の判断及び伝達や避難場所開設を想定した総合的な防災訓練等を行いました（写真－1、2）。



写真－1

住民参加型の土砂災害・全国防災訓練(石川県金沢市)



写真－2 防災訓練(沖縄県糸満市)

3. 土砂災害（特別）警戒区域等の土砂災害の危険性が高い箇所及び避難場所・避難経路等の周知・点検の実施

土砂災害（特別）警戒区域等の土砂災害の危険性が高い箇所及び避難場所・避難経路等を住民に周知するため、危険箇所を有する全国の市町村がハザードマップ等の各戸配布、講習会等の開催、広報誌・市町村ホームページ等への掲載、現地表示看板の設置等に取り組みました。その際、土砂

災害の危険性の理解促進のための情報、避難により難を逃れた好事例の紹介など住民自身による避難行動の重要性に関する理解促進のための情報、定められた避難所への避難が困難になった場合に近隣のより安全な場所へ避難する「次善の策」の考え方等、住民自らが土砂災害から命を守るための情報についても住民に説明を行いました。

また、土砂災害防止月間中に全国で約4,000箇所の土砂災害の危険性が高い箇所の点検、約200箇所の避難場所、約330箇所の避難経路の点検を行い、延べ約9,800名に参加していただきました（写真－3、4）。



写真－3 土砂災害の危険性が高い箇所の点検(香川県)



写真－4 急傾斜地(土砂災害特別警戒区域) 現地確認(佐賀県嬉野市)

4. 要配慮者利用施設における説明会等の開催

平成29年5月の土砂災害防止法改正に伴い、都道府県職員が社会福祉施設などの要配慮者利用施設に対して、ハザードマップ等による情報提供や土砂災害についての説明、施設利用者が安全に

避難するための避難確保計画の策定等に関する説明を各地で行っています。

今年度の土砂災害防止月間中には約260の施設に対して土砂災害の危険性を周知する説明会等を開催し、また、約220の施設において避難確保計画の作成、避難訓練の実施等に係る支援・助言を実施し、土砂災害関係の情報収集方法等について確認を行いました（写真－5）。



写真－5
要配慮者利用施設入所者への説明(山口県阿武町)

5. 砂防設備等の点検及び砂防指定地等の周知・点検の実施

砂防設備、急傾斜地崩壊防止施設及び地すべり防止施設の定期巡視点検並びに安全利用に資する点検を関係機関やボランティア等と連携して実施しました。

今年度は約8,400施設の点検を行い、延べ約3,800名に参加していただきました。点検の結果を踏まえ、老朽化した施設の修繕や砂防指定地看板の交換、倒木の撤去、転落防止柵の補修等を実施するとともに、砂防指定地等の周知・点検も行い、本格的な出水期に備えました（写真－6）。



写真－6 合同砂防施設点検(打音検査)
(中部地方整備局多治見砂防国道事務所)

6. 住民、教育関係者、小中学生等を対象とした講習会・体験会等の開催

土砂災害の現状や的確な避難行動をとるための知識を普及することを目的に、ハザードマップや土砂災害警戒情報等を活用した実践的な防災教育、啓発を行うための講演会・体験会等を開催し、約27,000名に参加していただきました。

また、土砂災害から命を守るためには学校教育の果たす役割が重要であるため、小中学生等を対象とした見学会等が各地で開催され、避難の方法や砂防施設の役割等を学んでいただきました（写真－7、8）。



写真－7 砂防堰堤見学会
(東北地方整備局岩手河川国道事務所)



写真－8 栄生学区連絡協議会防災研修
(6月5日：那智勝浦町)

7. 土砂災害対策の取り組み事例等に関する広報活動の実施

土砂災害の記録や教訓、土砂災害を防止するためのハード・ソフト両面の取り組み、その他土砂災害防止月間での行事内容についての広報を実施しました。多様な世代層への普及も念頭に、講演会や現地見学等による講義、都道府県・市町村広報誌への掲載、新聞、テレビ、ラジオ、パネル展

示、SNS等の多種多様な媒体を通じて積極的に実施し、土砂災害の恐ろしさや砂防事業の取り組み、土砂災害から身を守るための早めの避難や日頃からの備え等について周知を行いました（写真－9、10）。



写真－9 土砂災害防止パネル展(北海道)



写真－10 新聞掲載(関東地方整備局日光砂防事務所)

工夫等の有益な知見をもたらす事例についての論文（有益な取り組み事例）1件の発表と表彰を行いました。

おわりに

土砂災害防止月間において、全国各地の地域住民を含む数多くの方々に点検や避難訓練、説明会等にご参加いただき、土砂災害に対する防災意識が向上したものと思われま

す。近年、気候変動の影響により土砂災害が激甚化・頻発化している現状を踏まえると、砂防施設等の整備だけでなく、日頃から行政、専門家、ボランティア、地域住民が連携して警戒避難体制を強化していくことにより実効性のある避難を確保し、「いのち」と「くらし」を守る土砂災害対策が必要です。土砂災害防止月間の取り組みをはじめ、土砂災害防止に向けた活動を継続的に行うことで、土砂災害による犠牲者ゼロを目指していくことが重要です。

引き続き、都道府県、市町村、専門家、ボランティア、地域住民及び関係の方々のご理解、ご協力をお願い致します。

8. 全国砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会優秀論文等の表彰

全国砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会（主催：全国砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会実行委員会）は、長野・新潟両県境の蒲原沢の砂防工事現場において、平成8年12月に発生した土石流災害（作業員14名が犠牲）の教訓を踏まえ、施工条件が厳しい砂防関係の工事現場における安全対策について、行政と民間が共同で安全施工に関する研究や対策の情報共有を行い、技術の研鑽を図ることを目的として毎年6月に開催しています。

今年度は24回目となりますが、会場発表会及びオンデマンド配信によるハイブリッド方式で開催しました。直轄砂防発注工事関係6編及び都道府県発注工事関係2編の優秀論文に加え、工事安全の視点に限らず生産性向上や働き方改革の創意